



第105号 ふれあいの里

〒632-0001 天理市中之庄町470 TEL.0743-65-1771(代)

発行責任者：鉄村 信治

編集：ふれあいの里広報委員会

<http://www.fureai-net.com/>

CONTENTS

- 1頁 ・介護保険制度改正
- 2頁 ・カナダの在宅ケアシステム視察の旅
・作業療法士の取り組み
- 3頁 ・初めての行事を終えて
・託児所 秋の遠足
・靴下リサイクル展で特別賞受賞
- 4頁 ・みんなで作った御神輿
・ふれあいの里京田辺 秋祭り



新年、あけまして
おめでとうございます。

社会福祉法人大和清寿会 理事長 鉄村 俊夫

今年は2015年、乙未(きのとひつじ)の年です。「乙」は生い茂っている悪い風潮や慣例、足かせをまずは取り払い、前に進むべく努力していかなければならない年になるということ、そして「未」には単純に明るくすることや物事を不昧に持っていくことを心がけ、後ろめたい行動や言動を慎み、公明正大に事を行っていけばよいという意味があります。

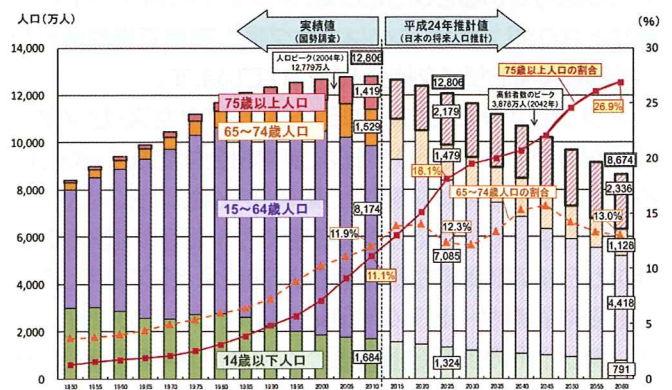
さて、今年は我々にとって関心の深い介護保険制度改正がある大切な年です。

今回の第6期改正の要点を3つ紹介しますと、

1. 要支援1・2の対象者について介護保険本体の給付(予防給付)から、訪問介護と通所介護を外し、市区町村が取り込む地域支援事業へ移行
2. 通所介護とくに定員10人以下の小規模型については、地域密着型サービスへ移行
3. 特別養護老人ホームの入所対象者を原則、要介護3以上にする

以上のように改正されます。65歳以上の高齢者人口(老年人口)が総人口に占める割合のことを「高齢化率」といいますが、介護保険が施行された2000年当時は高齢化率が17.3%でしたが、2013年には25.0%と約1.5倍になりました。総人口も少子高齢化で右記のグラフにもありますように、今後2060年には、人口減少と高齢化率はピークを迎えることが予想され、総人口は8,674万人に減少、一方、75歳以上については右肩上りの26.9%になると予想されます。すなわち、介護を必要とする高齢者人口はますます増

75歳以上の高齢者数の急速な増加



(資料) 総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)出生中位(死亡中位)推計 2010年の値は総務省統計局「平成22年国勢調査による基準人口」(国・年齢・性別「不詳人口」を按分補正した人口)による。

加するということです。そして、今後は国民が医療や介護が必要な状態になっても地域で安心して暮らせるよう、医療の分化と、在宅医療・介護連携をはじめとした地域包括ケアシステムの構築が必要となってきます。我々の仕事の重要度が今まで以上に増すということです。

ふれあいの里も今年は新しい施設が誕生し施設の整備がより一層充実します。具体的には奈良市の介護付有料老人ホーム(特定施設入所者生活介護)の開設と、それに追従する形での病院を含めた施設群の一部変更などのことです。この施設群を有効活用し、地域医療に貢献していきたいものです。

最後に、我々の使命は理念を遂行する事、それはつまり、ふれあいの里のサービスを利用されている全ての方々に喜んでいただく事です。我々は理念達成のため、これからも頑張っ参る所存です。季節は冬本番となりますが、どうかお身体に気をつけてください。

平成27年 元日

健和会理念

私達は、医療がサービス業であることを認識し、以下の目標を掲げる。

1. 患者さん中心の医療・看護・介護
2. 地域社会への貢献
3. 研究心と向上心を持つ
4. 和を尊ぶ

健和会基本方針

1. 私たちふれあいの里の職員はいつも患者さんの意思を尊重し権利を遵守して、患者さん中心の医療、看護、介護を実践します。患者さんのADL(日常生活動作)改善とQOL(生活の質)向上のため、積極的にリハビリテーションに取り組みます。
2. 私たちは、他の医療機関や地域の人々と連携して地域社会に貢献し、社会に開かれた施設を目指します。
3. 私たちは患者さんから学ぶという初心を忘れず、より良い医療、看護、介護を提供できるように常に研鑽し探究する精神を持ち続けます。
4. 私たちは力を合わせてチーム医療の遂行のために努力します。

カナダ在宅ケアシステム 視察の旅に参加して



昨年9月22日より8日間、全国訪問看護事業協会主催の視察旅行に参加させて頂き、カナダの在宅ケアシステムを学ぶことができました。

日本では今、2025年に向けて地域ごとに「地域包括ケアシステム」を作り上げることが大きな課題となり、全国各地で取り組みが始まっています。

カナダは以前から、利用者を中心に多職種が包括的ケアに取り組んでいるということで、オンタリオ州トロントが視察地となりました。トロントはカナダ最大都市で世界各地から移民が多くモザイク社会と言われています。

オンタリオ州にはコミニティケア・アクセス・センター(CCAC)が14箇所あり初日は、まず州全体をカバーしているトロントのCCACの視察から始まりました。

ここでは、「できるだけ長く在宅でサービスサポートを受けながら快適に過ごして頂くこと」を使命としており、家庭に必要な医療サービスの計画と実施についての管理、又、オンタリオ州の長期療養施設への入所の申請や多くの病気を抱った児童のケア、アダルトサポート、メンタルヘルス、終末期などのケアコーディネーション等の機能を担っています。利用者のアセスメントを集中的に看護師が実施しています。CCACの予算は州政府から支払われ利用者負担は



全くありません。

トロントのCCACから委託されその管轄の基で運営されている長期滞在型施設(ナースィングホーム)やデイケア施設を訪問しました。ケア内容のレベルは殆ど日本と同じ程度と思われました。実際に在宅看護をしているオフィスを見学し、「在宅ケア全般」「訪問看護サービスの実際」からアセスメント・評価に至るまで学習することができました。

最後の日にはトロントから2時間、足を伸ばして一番の楽しみであるナイアガラの滝を観光しました。余りの迫力に圧倒されその雄大さに魅せられ、もう大満足でした。

全国から参加した14名の方々と大変親しく交流でたことに、そして、このような企画をして下さったことに、又、送り出して下さった皆様に心より感謝し、今回の貴重な経験を今後の訪問看護活動に活かしていきたいと思っています。

(訪問看護ステーションひまわり秋篠 水谷 まり子)

当院の作業療法士の取り組み 「お料理会」



当院に入院されている患者様の中には、長期入院により、生活の場の主体が「病院」になることを余儀なくされている方がおられます。

「したい事や希望する事はありますか?」と質問しても、「病院だから…」と「歳だから…」等と諦めてしまっている方も多くいらっしゃいます。

そこで、「病院での生活」も重要ですが、病院でも「在宅に近づけた生活」を送ってもらえないかと考え、「お料理会」を実施し、4年経ちます。

外とのつながりが少なくなる入院生活の中で、他者と交流することで、楽しみ・生きがいを見つけてもらう機会の提供、集団での社会的交流を通して自らの役割を発見し、有能感を得る事で、精神・心理機能の改善・QOL向上につなげていく、また、在宅に帰られる方の調理練習等を目的として実施しています。

当院入院患者様を対象に数名の集団で協力・分担して料理を作り、食べてもらっています。事前準備として参加される患者様同士で、作る料理を話し合っ決めて時間を設け、計画することで認知面への刺激を期待しています。そして

その翌週に料理を作って頂き、その翌週には、調理場面を参加者皆で思い出しながら、アルバム作成をしています。

Dr. とNs.に相談し確認をしてから、栄養士にアドバイスを受けています。作業療法士同士で患者様一人一人に目標を設定し、情報を共有できるようにミーティングの場を設け、スタッフがどの参加者と関わっても差が出ないように準備しています。

観察記録から、「笑顔が増えた」「食事がアップした」「自発的発言の少ない方の発言量が増えた」等の反応がみられています。

お料理会に参加して頂いたことが、このような反応を得られた「きっかけ」になったのではないかと考えています。

他職種の協力があり、作業療法士の想いがあり、今まで取り組み続けられているのだと思います。今後も、作業療法士として出来る事を少しずつ取り組んで行きたいと思っていますので、ご協力お願い致します。

(奈良東病院 リハビリテーション科 作業療法士 湊奈保)



初めての行事を終えて



行事の準備は一カ月以上前から構想を練り、メンバーで話し合いをして決めます。企画書は行事の二週間以上前に上司に提出し、許可が出て初めて実施することになっています。そのため、時期が近づくと準備するメンバーと顔を合わせるたびに「行事の内容、どうしよう」という話になります。テーマは時期的に「秋」だったのですが、9月10月の月見や運動会、12月のクリスマス、紅白歌合戦と違い、11月にはこれといったものが思いつかなかったためしばらく悩むことになりました。

しかし、メンバーで提案をし、話し合う中で「紅葉狩り」というキーワードが挙がり、行事リーダーのアイディアで「秋の作品展」に出展しようとなり、一つの木に赤や黄色の葉っぱを貼っていきもらい、紅葉した木を完成させてもらう事に決めました。することが決まってからは行動がとても速く、長年この仕事に携わっている先輩方の实力を感じました。

行事当日は二つのグループに分かれてもらい、一つは模造紙に描かれた木の幹の周りに紅葉の葉っぱや、休憩や仕事の

合間に作成した枯葉、イチヨウの葉を患者様に張り付けてもらい、もう一つのグループでは木の足元に添える栗やサツマイモをちぎり絵で作ってもらいました。

最後に二つのグループで作った作品を張り付けて一つにし、紅葉した木を完成させました。

その中でも、私が担当していた木作成のグループで歌を口ずさみながら上機嫌に作業をしていた方は普段は、一人で寂しい、家族も誰もいないと寂しそうにされている事が多かったのですが、その時は久々に明るい笑顔を見ることができたので、目頭が少し熱くなるのを感じました。

他の患者様と同じ時間を共有し、作業をすることによってその方の寂しい気持ちが解消される瞬間をかいま見、他の人と互いに触れ合える時間が共有できる行事の大切さを実感することが出来ました。

今回の経験をもとに行事の目的を忘れずに患者様の笑顔がたくさん増えることを考え、計画していこうと思いました。

(奈良東病院西2階病棟 木下カリナ)



笑顔の子どもたちの姿に触れて



平成26年10月9日(木)託児所の秋の遠足に運転手として随行しました。当日の天気は快晴でまさに遠足日和といった天候でした。保育士8名・子ども13名を乗せ、9時にいざ出発です。行先は大和郡山市にある九条公園です。

この公園は平成2年7月にオープンした都市型公園です。公園の中心となる九条スポーツセンターには温水プール・体育館・健康運動室等があります。今回行った公園はスポーツセンター北側に位置し、「健康の森」や「トリム広場」があり

50mの「ローラー滑り台」「木製遊具」や「ブランコ」等がある憩いの場です。

久しぶりのお出かけということもあり、子どもたちは相当楽しみにしていたみたいで、バスの中でも喜び・はしゃいでいました。11時30分頃には帰って来ましたが、遊び疲れたのか帰りのバス内では皆ぐっすりでした。

(奈良東病院 車両課)



靴下リサイクル展で特別賞受賞



11月に広陵町商工会主催の靴下リサイクル展があり、そこに出品したふれあい東九条の入居者 西脇様の干支の貼り絵が、入賞しました。青森から熊本県まで365点の出展があったそうです。西脇様は授賞式では緊張されている様子でしたが、展示会の見物では、他の作品に興味をもたれ、「あれはどうして作ってるのかな?色ははっきりしたほうが引き立つな」などと来年に向けての意気込みも話されていました。ホームとしては2回目の出展で入賞し、靴下リサイクルへの興味が深まっています。今回の作品は1回目の出展後、検討を重ね、材料集め、下絵書きなど少しずつ進めて、本格的には正月明けから取り組み半年以上を要しました。

職員が忘れていても、「あれしよっか?せなあかん」と声をかけてくださり、作成中は他の利用者さんから「いいのできたわ」などの励ましもあり、西脇様の根気と皆さんの励ましと協力で完成しました。西脇様の中では次の作品の構想もできているようなので次のリサイクル展にむけてサポートしていきたいと思います。

(グループホームふれあい東九条 松尾 夫美子)



みんなで作った御神輿



行事は季節はずれではありましたが、病棟では御神輿担ぎと、リハビリ女性スタッフ協力でフラダンスをやって頂きました。準備の段階で「御神輿を一から作りたい」とこと、なんらかの形で患者さんにも御神輿作りに関わって頂こうと思い準備に取り組みました。まず段ボールを集め、土台作り、その土台に合わせ御神輿の周りに貼り付け、御神輿の頭は三角に段ボールを切り貼り合わせ御神輿を作りました。ここまでは病棟スタッフで作りましたが、患者さんに手伝って頂きたかったため、数人の患者さんに声掛けをし、御神輿完成まで手伝って頂きました。まず御神輿が段ボールのままであったため、段ボールの周りに白の画用紙を貼り付けて頂き、色を塗って頂きました。色を塗るだけでなく絵を描いたり、自分の名前を書く患者さんもうらっしゃいました。また他の患者さんには別紙に好きなこと、願い事、したいことなどを書いて頂き御神輿に貼って頂きました。

行事当日30人ほどの患者さんに食堂に集まって頂きました。まずはフラダンスです。全部で3曲踊りました。最初普段とは

違う服を着た職員達に戸惑い、誰だか解っていない様子でしたが、職員達が受け持ち患者さんに声を掛けると誰なのか解った様子で、話し返したり手拍子をさせていました。じっと見入った様子の患者さんもおられ、フラダンスの完成度の高さに感動されている様子がうかがえました。



次に御神輿担ぎでは、患者さんに円状になって頂き、スタッフが食堂の患者さんの前で御神輿を担ぎ楽しんで頂きました。そして円状になっている患者さんに御神輿を渡し、座ったままで患者さんに順番に担いで頂きました。「よいしょ、よいしょ」と声を出される方もおられました。途中で御神輿を落とされるというハプニングもありましたが、皆さんに喜んでいただきました。最後にベッド上で過ごされている方の部屋にも訪し、御神輿をみていただきました。

(奈良東病院 4階病棟 萬歳 拓也)

ふれあいの里京田辺 秋祭り



10月25日の土曜日に恒例の秋祭りを行いました。前年は台風で中止になりましたが、当日は晴天に恵まれ第7回目の秋祭りを青空の下で行うことができました。

ふれあいの里京田辺は地域密着型の事業所で1階が小規模多機能、2階がグループホームになっています。

グループホーム入居者様の御家族にも協力して頂き、近所の方や、小規模多機能の利用者様とその御家族など、多くの方に来ていただきました。

屋台はカレーライスに焼き鳥、フランクフルト、ジュースにビール、たこせん、おしるこ、ヨーヨー釣り、射的など盛りだくさんで、利用者様や近所の方も楽しんでおられました。

カレーライスはグループホームの御家族が朝早くから準備して下さり、美味しくて大盛りなのに100円という値段もあって飛ぶように売れていきました。

射的は本格的で近所の子供たちが何度も挑戦していました。利用者様の中にも射的が好きな方がおられ、射止めた景品のぬいぐるみやアニメのフィギュアを手にして喜んでおられました。

した。

にぎやかな雰囲気の中、利用者様は焼き鳥やフランクフルトなど、好きな物を食べながら楽しそうにお話しされ、祭り気分を満喫されていました。



祭りのクライマックスでは和太鼓の演奏があり、迫力のある太鼓の響きに皆さん聞き入っておられ、最後は「幸せなら手をたたこう」の唄に合わせた踊りで盛り上がり、飛び入りの方も多く参加して頂きました。

毎回離れた部署から応援に来て下さる職員方に加え、今年は新たな職員も加わりスムーズに祭りが行えて地域の方とのつながりをより一層深めることができましたと思います。今後も地域密着型の事業所として、この祭りを継続していきたいと考えています。

(ふれあいの里京田辺 館長 米杉 敏郎)

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。平成27年を迎え、皆様どのようにお過ごしでしょうか。去年は12月に例年のない猛烈な寒波のせいで非常に寒い日々が続きました。そのような中、12月14日に節目の5回目となる奈良マラソンが行われました。開催日当日も強い風の吹く非常に寒い中でしたが、多くのランナーが奈良市から天理市にかけての42.195kmのコースを楽しみながら走られていました。ふれあいの里でも少しでもランナーの皆さんを元気づけようとして有志職員による応援を行いました。次回奈良マラソン開催時もまた応援を行いますので、寒い中ではありますが、皆様の温かい声援をいただければと思います。

さて、今回のふれあいですが、まだ寒くなる前の内容が主となっております。外は寒い冬真っ只中ではありますが、晩秋を思い返しながらお読みいただければ幸いです。

(広報委員長 橋本 重之)